

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	岐阜工業高等専門学校
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ギフコウギョウコウトウセンモンガッコウ
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	中部地方(愛知県を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立高等専門学校
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	特別実習
	学部・研究科等名	専攻科
	担当教職員名・役職	専攻科長 北川秀夫、専攻科長補佐 犬飼利嗣、専攻科会議委員 河野託也、飯田民夫、北川輝彦、鈴木正人、技術室技術長 加藤真二、学生課教務係
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	36
	受入企業等数	126
受入企業等名	TYK Limited、バンドン工科大学、マレーシア工科大学、ハノーバー大学、アイオワ大学、(株)ザイマックス、(株)キクチコンサルタンツ、横浜市、大阪ガス(株)、東京水道サービス(株)、花王(株)、日本ソフト開発(株)、キャノン、サントリーグループ、国土交通省近畿地方整備局、東芝メディカルシステムズ、一宮市役所、旭化成、日本空港テック(株)、三菱電機メカトロニクスエンジニアリング、ドコモCS東海、出光興産(株)、東京ガス(株)、川田工業(株)、日本特殊陶業(株)、日本原子力発電(株)、(株)資生堂、岐阜精機工業(株)ほか	
インターンシップの分類	3.海外インターンシップ 5.他県をまたぐ広域インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業等における課題解決は少数であり、業務への従事が多数となる(企業によっては両者が混在しているケースもある)。業務への従事の内容については、文字通り就業体験が多いが、特に情報系企業の場合には、学生がインターンシップ期間中に有用なシステムを開発するケースもある。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	4.当該インターンシップは、必修科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	専攻科1年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	3単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	専攻科1年次の必修科目として、夏期休業期間中に3週間以上のインターンシップを行う「特別実習」を定めている。本科目では、企業、官公庁又は大学(海外を含む)において技術体験を通じて実践的技術感覚を体得させるとともに、技術体験で得た成果を学修(特に特別研究)に生かすことを目的としている。
3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい	
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	

要素③	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	全3回の事前学習の中で、インターンシップの趣旨・目的の理解、県内の状況、参加するにあたって自己分析の始め方(第1回)や、企業担当者との直接面談(第2回)、社会人としての実践マナーを学ぶこと(第3回)等を実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	報告書を提出させるとともに、報告会(口頭発表)を実施している。また、その報告内容に対して評価シートに基づく採点を実施して単位認定している。15日以上インターンシップを課しているため受け入れ企業が複数に及ぶ場合もあるが、全ての企業について報告書を提出させている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	全企業ではないが、インターンシップ期間中に教員が受け入れ先企業を一度訪問し、学生の就業状況を確認している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	到達度を具体的に示した評価基準を整備し、企業担当者及び教員で以下の項目について5段階評価を実施している(学生も自己評価を実施)。技術者の社会的責任、問題抽出・検討能力、協調・管理統率能力、実践能力、報告書作成・プレゼンテーション能力、評価能力
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間15日間以上
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間15日間以上
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業数の制限はないが、合計で15日間以上の実施を義務付けている。当初は一社での実施を意図していたが、15日間の受け入れを承諾していただける企業が少なかったため、複数社での合算でも可としている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	評価シートを作成し、企業の担当者に学生評価をしていただいている。成績評価は、企業担当者の評価と報告会の内容に基づき担当教員が実施している。また、学生が作成した報告書を企業担当者に確認していただくことで、企業へのフィードバックを実施している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問い合わせ先	大学等名	岐阜工業高等専門学校
	担当部署名	学生課教務係
	担当者役職名	係員
	担当者氏名	鶴飼 智恵子
	電話番号	058-320-1252

に
先

メールアドレス

kyoumu@gifu-nct.ac.jp